

国語 第6学年 登場人物の生き方について、考えたことを話し合おう 検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：太一の生き方について、関わる人物の言葉や行動、最後の選択とそれ以前の場面を結び付けて考える。教訓を言うだけにせず、どの関わりや出来事を重く読んだかを根拠として示す。C(1)力の学習として、人物の生き方への意見文。最後の選択についての考え、前の場面の根拠、関係の説明、交流後に広がった見方を記す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、人物の生き方について場面を関係付けてまとめた意見を共有し、自分の考えを広げているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)力の姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：人物の生き方への意見文を残す。最後の選択についての考え、前の場面の根拠、関係の説明、交流後に広がった見方を記す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)力に関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：命を大切にするという結論だけで本文との対応がない。人物の行動を自分の価値観だけで善悪に分ける。これについて、太一の行動と、関わる人物の言葉や行動を対応させる。最後の選択につながると考えた箇所を示し、関係を説明する。解釈の違いは根拠の違いと結び付け、結論だけの賛否にしない。〔知識及び技能〕(1)オとC(1)力を切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「太一の最後の選択を考えると、それ以前のどの関わりや出来事が大事だと読みましたか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)力に関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：人物の生き方への意見文は紙に記録できる。最後の選択についての考え、前の場面の根拠、関係の説明、交流後に広がった見方を記す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)力の評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)力で目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：生命尊重という主題にまとめればよいのか。

返し：C(1)力は、児童が文章を読んでまとめた意見や感想を共有し、考えを広げる学習である。主題の語を当てるだけにせず、人物の選択と前の場面を結び付けた説明を見る。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「太一の最後の選択を考えると、それ以前のどの関わりや出来事が大事だと読みましたか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)カに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

